

参考事例－学習指導略案－

Ⅲ 第6学年 社会科（上） 単元名「江戸の文化と新しい学問」（第2時の学習指導略案）

伝統文化教育

社会科学学習指導案

6年組 指導者 ○○ ○○

- 1 日時 平成○年○月○日（○）○校時
- 2 単元名 「江戸の文化と新しい学問」
- 3 単元の目標 歌舞伎や浮世絵，国学や蘭学について各種の資料を活用して調べ，町人の文化が栄え新しい学問が起こったことについて考え，表現する。
- 4 本時の目標 資料から歌舞伎についての必要な情報を集める。
- 5 本時の展開 2／6時間

学習活動	主な発問（◇）主な指示（□） 予想される児童の反応（・） 「学習問題」あるいは「学習のめあて」	必要な資料など（◆） 伝統と文化に関わって必ず提示する資料（㊟）	支援（*）留意点（○） <u>評価</u> 【但し，「地域で学ぶ強み」となる素材をどのように学習活動に組み込むのか，その支援については，㊟及び 太字ゴシック で示す。】
1 資料から情報を読み取り，予想を立てる。	◇（教科書 91 ページの資料「旧金毘羅大芝居の上演に集まった人々」を提示して，） この建物は何の建物でしょう。 ・相撲部屋かな。 ・歌舞伎役者が描かれた看板があるよ。 ・歌舞伎の芝居小屋だと思う。	◆教科書 91 ページの資料「旧金毘羅大芝居の上演に集まった人々」 ◆教科書 90 ページの資料「歌舞伎を楽しむ人々」	○児童の予想から，歌舞伎の芝居小屋が出たときに，教科書 90 ページの資料「歌舞伎を楽しむ人々」を板書に提示する。
2 本時の学習問題を考える。	□資料「歌舞伎を楽しむ人々」と文章資料「このころ，江戸，大阪，京都や各地の城下町の芝居小屋は，いつも大勢の人でにぎわっていた。」をもとに本時の学習問題をつくりましょう。	◆文章資料「このころ，江戸，大阪，京都などの芝居小屋は，いつも大勢の人でにぎわっていた。」	*絵画資料と文章資料を関連付けることで，本時の学習問題を考えることができるようにする。

<p>3 本時の学習問題に対する予想を考える。</p> <p>4 本時の学習問題に対する予想を解決するために資料を活用して調べる。</p>	<p>・なぜ、歌舞伎は大勢の人に親しまれていたのだろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>歌舞伎は、どのようにして多くの人に広まっていったのだろう。</p> </div> <p>□本時の学習問題に対する予想をノートに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たぶん、多くの作品がつくられたのだと思う。 ・もしかして、今の映画のように楽しい作品があったからだと思う。 ・作品は誰が作ったのだろう。 <p>□本時の学習問題に対する予想を解決するために、教科書や資料集をもとに調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近松門左衛門という人物が約 150 編もの脚本を書いたのだね。 ・作品には「曾根崎心中」や「国姓爺合戦」があるのだね。 ・近松門左衛門は人間浄瑠璃にも関わりがあるのだね。 ・近松門左衛門が脚本を書いた歌舞伎や人間浄瑠璃は、町人たちの生き生きとした姿や義理人情が描かれ、人気を集めたのだね。 	<p>◆教科書 90 ページ「近松門左衛門」の人物画</p>	<p>○予想を考えるときには、「たぶん～」「もしかして～」といった思考を大切にすることを児童に伝える。</p>
---	---	--------------------------------	---

<p>5 京都のどこで歌舞伎が行われていたのかを知る。</p> <p>6 学習問題に対して理解したことをノートに書きまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎の発展を支えたのは、江戸時代の町人なのだね。 <p>◇京都にも芝居小屋があったということですが、どこに歌舞伎の芝居小屋があったのでしょうか。写真資料からどこかわかりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見たことがあるよ。 ・四條にある京都南座かな。 ・京都南座とその周辺地域は歌舞伎の成長を育んだのだね。 ・四條河原の阿国（おくに）という女性が歌舞伎を築いたのだね。 ・つまり、京都と歌舞伎も関わりがあるということだね。 <p>□本時の学習問題に対してわかったことをノートに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近松門左衛門が脚本を書いた歌舞伎や人間浄瑠璃は、町人たちの生き生きとした姿や義理人情が描かれ、人気を集めて多くの人に広まったことがわかった。また、京都南座とその周辺地域は歌舞伎の成長を育んだところであることもわかった。つまり、歌舞伎は江戸の社会で広まっただけでなく、京都でも広がっていたことがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊤ 京都南座の写真資料・文章資料 ㊤ 阿国（おくに）に関する写真資料・文章資料 	<ul style="list-style-type: none"> ㊤ 京都南座と阿国（おくに）に関する写真資料・文章資料を用いることで、京都と歌舞伎とのつながりに気付くことができるようにする。これらから情報を読み取る際には、「～ということは…」「つまり…」と自問自答しながらノートに書くように指示することで、歌舞伎と京都との関わりに気付くことができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">【観察・資料活用の技能】</p> <p>絵画資料や文章資料などを活用して、歌舞伎についての必要な情報を集めている。</p> <p style="text-align: center;">(発言・ノート)</p> </div>
---	--	--	---

6 板書計画

